

新産業・事業のきっかけを

神在月縁むすび世界大会

企業関係者ら“出会い”

新しい知恵の創造と新しい事業の創出のきっかけを探る第一回「神在月縁むすび世界大会」が二十三日、島根県松江市の県立産業交流会館（くにびきメッセ）で開かれ、新時代の価値観を日本の心ふるさと「出雲」の地に構築することを提言した。

同県内の若手経営者らが「まな地域の人が、出会う、集まった」「世界八百万（や）場を提供し、新しい時代のおよろず」委員会（千家 構想や発想を探っていく）専務委員長）の主催。縁むすびの神として知られる出雲大社の地にちなんで、逆のが目的。

大会には、企業関係者を

中心に、全国から約五百五十人が参加。まず評論家の草柳大蔵氏が「現代文明の転換点と出雲阿国」と題して基調講演し、「行き詰まりの時代には、秩序の周辺にいる自由な立場から従来

の発想にないものを形にすることで新しい価値を生み出せる。それは、傾（か

くにびきメッセ

ぶ）きもの」として歌舞伎を生み出した阿国と共通する。現代の発想の転換にはインターネットが重要な役割を果たす」と主張した。また「新しいルールに基づく世界との共生・競争を目標として」をテーマにしたパネル討論会では「未来の共通目的と、それを実現する目標」などについて意見を交わした。二十四日には、大会の第二部として「神在月縁むすび起業・創業セミナー」を同じ会場で開催。新しい産業や事業に挑戦するため、街水者らを応援するため、街水・食・情報などをテーマに発想のヒントを提供する。



出雲の地から新時代の価値を構築することを提言した大会

人・ついでに